

辞書の歴史

1

Woordenboek der Nederduitsche en Fransche Taalen		
AN-79	1729	François Halma編
フランソア・ハルマ編の蘭仏辞典。江戸期の蘭和辞典である『ハルマ和解』（江戸ハルマ）、『ゾーフ・ハルマ』（長崎ハルマ）の原本となった。		

- ◆ フランスの新教徒弾圧政策の一つ「ナントの勅令廃止」（1685）によって大量のフランス新教徒がオランダに移住した結果、オランダ国内においてフランス語が盛んになった。ユトレヒトの出版業者フランソア・ハルマ(François Halma)は、フランス語に関心をもつ人々にとって辞書が必要であると感じ、オランダ語とフランス語の対訳辞典を刊行した。そのうちのオランダ語－フランス語（蘭仏）辞典が本書である。

本書は、日本初の蘭和辞典である『ハルマ和解』をはじめ、種々の蘭日辞典の原本となったものであり、江戸期の蘭学発展に大きく寄与した。「ハルマ」といえばオランダ語の辞典と解され、著者ハルマはその代名詞とされたほどであった。

- ◆ 当館所蔵本は第2版(1729)で、『ハルマ和解』『ゾーフ・ハルマ』の原本と考えられている版である。表紙裏の紙に2枚の貼紙がある。そのうち1枚には

ハルマ 和蘭 佛郎西對譯辭書 辭之廿四 千七百二十九年 楓山 全二冊 上

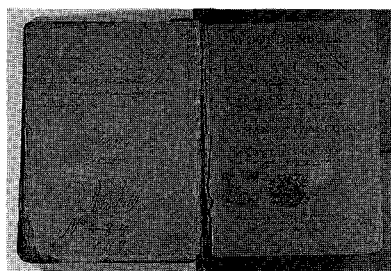
とある。

楓山とは「紅葉山文庫」（もみじやまぶんこ）のことで、幕府が江戸城内に設けた一種の図書館である。全二冊とあるが、本書が全2巻で完結ということではない（本書は全1巻）。これについては、2通りの解釈が考えられる。同一本がもう1冊備えられていたという考えと、下巻はフランス語－オランダ語（仏蘭）辞典であろうとする考えである。後者であるとするなら、日本には「蘭仏」と「仏蘭」辞典が対で入ってきたことになる。

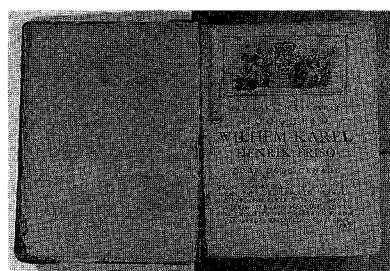
貼紙の貼られた紙の裏には、美しい筆記体によるオランダ語が5行にわたってインクで記され、その下にはイニシャルと思われる文字や「1777」の数字等がみえる。全1005ページ。本文は3段組みで、オランダ語の見出し語の後にオランダ語とフランス語による説明が続く。フランス語の部分はイタリックで表わされている。

* マイクロフィルム、複製本あり。

〈参考文献〉 『日本洋学史の研究 Ⅲ』（402.1-8-3）



1 蘭仏辞典（ハルマ編）



1 蘭仏辞典（ハルマ編）